

認知症の人と
つくった

16のまちだ

アイ・ステートメント



認知症になっても地域の中で自分らしく活躍できる「認知症とともに生きるまち」。その目指すべき姿を、行政や地域の人たちが共通の目標として共有するため、2016年、「16のまちだアイ・ステートメント」がつけられました。作成にあたっては、認知症の人やその家族、医療福祉関係者、行政、民間企業、NPO、研究者など、幅広いメンバーが話し合いを重ねました。認知症の人にとって町田市がどのようなまちであってほしいのか…いっしょに考えてみましょう！

2つの特徴

主語は「アイ＝私」

この“私”は、「今認知症である私」、そして「これから認知症になり得る私」を指しています。誰しもが認知症とつきあって生きることがあたり前になりつつある今、どんな“私”でも当てはまるのが、16のまちだアイ・ステートメントです。

「私の暮らし・私の状態」で表現

16のまちだアイ・ステートメントは、ある取り組みをした結果、認知症の人の暮らしや状態がどのようなになるのか、という表現を用いて目指すべき姿を表しています。

16のまちだアイ・ステートメント

1

私は、早期に診断を受け、その後の治療や暮らしについて、主体的に考えられる。

2

私は、必要な支援の選択肢を幅広く持ち、自分に合った支援を選べる。

3

私は、望まない形で、病院・介護施設などに入られることはない。望む場所で、尊厳と敬意をもって安らかな死を迎えることができる。

4

私は、私の言葉に耳を傾け、ともに考えてくれる医師がいる。

5

私は、家族に自分の気持ちを伝えることができ、家族に受け入れられている。

6

私の介護者は、その役割が尊重され、介護者のための適切な支援を受けている。

7

私は、素でいられる居場所と仲間を持っており、一緒に時間を楽しんだり、自分が困っていることを話せる。

8

私は、趣味や長年の習慣を続けている。

9

私は、しごとや地域の活動を通じて、やりたいことにチャレンジし、地域や社会に貢献している。

10

私は、認知症について、地域の中で自然に学ぶ機会を持っている。

11

私は、経済的な支援に関する情報を持っており、経済面での生活の見通しが立っている。

12

私は、地域や自治体に対して、自分の経験を語ったり、地域への提言をする機会がある。

13

私は、認知症であることを理由に差別や特別扱いをされない。

14

私は、行きたい場所に行くことができ、気兼ねなく、買い物や食事を楽しむことができる。

15

私は、支援が必要な時に、地域の人からさりげなく助けてもらうことができる。

16

私たちも、認知症の人にやさしいまちづくりの一員です。

あなたの好きなアイ・ステートメントはどれですか？

“私”はこのアイ・ステートメントを大事にしたい！を見つけてみましょう

